

リオ+20:私たちが望む未来から私たちが必要とする未来へ

リオ+20 の成果文書に対する女性メジャーグループの最終意見

2012 年 6 月 24 日

女性メジャーグループは、世界各地の 200 の市民女性団体を代表している。リオ+20 の会議の結果には非常に失望した。世界の政府は、女性および将来世代を失望させた。

女性の権利は押し戻された

2 年間の交渉が結実したリオ+20 成果文書であるが、持続可能な開発における女性および将来世代の権利のためにほとんど進展が見られなかった。女性メジャーグループは、既に合意されている女性の権利とジェンダー平等についてのコミットメントを残すために昼夜を問わず努力したが、これらの権利の再確認のために多大な時間を費やせられ、私たちが必要としている未来に向けて進めるためのコミットメントや真の前進のための時間をとられてしまった。

世界中の女性たちは、政府が、女性のリプロダクティブ・ライツがジェンダー平等および持続可能な開発の中核であることを認めなかつたことを怒っている。リプロダクティブ・ライツは人権であることは普遍的に認められている。持続可能な開発とリプロダクティブ・ライツの関連は、既にアジェンダ 21においてもその後の 1994 年の国際人口・開発会議(ICPD)の行動計画でも認められていた。

リオ+20 は二国間会議ではなく多国間の会議であることからすれば、すでに約 20 年前に合意されたリプロダクティブ・ライツについて再び交渉が行われ、成果文書で再確認されなかつたということは受け入れ難いことである。とは言え私たちは ICPD、北京行動綱領およびそれらの実施を検証した文書が再確認されたことは評価する。特に、ICPD+20、MDGs+15、SDGs のプロセスおよびポスト 2015 の開発議題の準備の現状に鑑み、世界中の政府に対し、ジェンダー平等、とりわけ、性と生殖に関する健康と権利へのコミットメントを再確認し、すべての男女、若者が潜在的能力を十分に開花して生きられるようにすることを強く要請する。

また、成果文書では、女性の土地所有権、財産権、相続権についての強いコミットメントがどこにも触れられていない。人権の視点からだけでなく、経済の視点から見ても、世界の人口の半分が資源へのアクセスから除外されていることは全く馬鹿げている。いくつかの政府代表は文書におけるこの重大な漏れについて批判したし、ノルウェーの首相がコメントしたように、ノルウェーでは女性が産み出した GDP の割合は石油による国家の歳入を超えていた。

健康な環境に向けての権利の否定

何千人のひとの健康な環境で生きる権利が踏みにじられている。女性メジャーグループは放射能汚染とその深刻な健康および川、地下水、食料、大気を含む環境への影響について成果文書で全く触れられていないことに愕然とし、危機感を募らせている。リオ+20の成果文書では、受けいれられない原子力汚染の危険および原子力エネルギーのコストの高さについての認識を示すべきだった。女性メジャーグループはここリオで、直ちに原子力発電を止めるようにと訴えている日本の女性グループと強く連帯する。私たちはまた文書の鉱山採掘に関して、鉱山会社の利益の方が重視され、女性、コミュニティ、先住民にとっての健康な環境の重要性を訴えていないことに失望させられたことを指摘したい。

さらに、気候変動とジェンダーの重要な関係に全く触れられていない。これは承服しがたいことであり女性の日常の経験に反するものである。女性、子ども、先住民、貧困状態にある人びと（その多数は女性）は、ますます切迫しつつある気候変動の影響を最も強く受けている。同様に、女性は気候変動の緩和と適応に関し多大な貢献ができる可能性があるにもかかわらず気候変動の解決に必要な主導的役割や参加についても触れられていないことは問題である。

土地の強奪をやめ女性の自然資源へのアクセスと管理を確実にする

世界の多くの国で、女性は所有者となることができない土地を耕し、権利を認められない森林から食料を集め、全食料の80%を生産している。持続不可能な鉱山開発やバイオ燃料のために資源に殺到したため、多くの女性たちが何千年も耕し守ってきた土地を追われている。女性たちはこの土地の強奪を止めるように訴える。女性たちが行っている食料生産はバイオ燃料、遺伝子組換え生物、モンサントのような大規模農業企業には太刀打ちできない。私たちは、成果文書に遺伝子組換え生物の凍結のための明確な行程が書かれておらず、生計の基礎である自然資源へのアクセスと管理に関する女性の権利を保障するための具体的な手段が含まれていないことに非常に失望した。特に、鉱業分野では、影響を受けているコミュニティの権利保障が含まれないことは問題である。

グリーン経済=グリーンウォッシュ？

リオ+20の成果文書が、いわゆる「グリーン経済」イニシアティブで影響をうけるすべてのコミュニティに、自由な事前のインフォームドコンセントを明確に保障していないことに、女性たちは失望している。女性は、鉱山会社、バイオ燃料、森林伐採企業の「立入禁止区域」を設定することを要求する。女性、先住民および地域コミュニティの水源へのアクセスとコントロールを保障するため、水源の非私有化を要求する。私たちは、法的規制を伴う予防原則に則って実施されない限り「グリーン経済」は「グリーンウォッシュ」以上のものではないと考える

持続可能な開発への資金

リオ+20の成果文書は、政府に、持続不可能で不公平なエネルギーシステムから地域分散型の再生産エネルギーシステムへ転換するために、緊急に必要な投資のための資金源を確保するための枠組みの変更をもたらしていない。南の国々では、この投資は、農村における女性および家庭のエネルギー消費に焦点をあてた、安全でクリーンなエネルギーへのアクセスに優先的にまわされるべきである。女性メジャーグループは、成果文書でこの点に関する明確なコミットメントが書かれていなことを遺憾に思う。

女性はまた持続可能な開発のために、民間資金に一層焦点があてられ、公的資金が減っていることを強く懸念する。金融取引税のような新しい資金的メカニズムに関するコミットメントがないことを遺憾に思う。女性たちは、エコシステムや地域社会に害となる、例えば原子力や化石燃料産業への間接的補助金を含む補助金の削減を求める。しかしながら、不正な資金の流れの問題取り上げることが合意されたことは歓迎する。タックスヘブン（租税回避地）における

る何十億もの不法な資金を取り締まり、持続可能な開発や貧困根絶に役立てるべき時である。

新規政府間プロセス－女性の声が確実に聞かれるようにするために

リオ+20で唯一具体的なことは、SDGsおよび資金メカニズムに関する二つの政府間交渉プロセスの設置が決まったことである。SDGsのプロセスでは30人の専門家からなる委員会が設置される。女性は、SDGsのための専門家パネルに市民社会の女性団体の代表に1席割り当てるよう要求する。加えて、事務総長に対し、パネルの構成メンバーのジェンダー・バランスを確保するよう要求する。

最後に、リオ+20は持続可能な開発のための強力なガバナンスを打ち立てることができなかつた。私たちは特に、提案されていた将来世代のための高等弁務官(high commissioner)が削除されたことを遺憾に思う。

リオ+20は政府が、貧困や環境破壊を終わらせ、最も脆弱な人びとの権利を守り、女性の権利および女性のリーダーシップを十全に実施するための具体的な手段をとるための歩みを進める歴史的チャンスであった。しかるに今日私たちは、貧困、不公正の増加、回復不能な環境の危険に直面している。これは私たちが望む未来ではなく、私たちが必要としている未来でもない。

女性メジャーグループ(WMG)は 200 以上の団体からなり、Women in Europe for a Common Future (WEFC), Voices of African Mothers (VAM), and Development Alternatives with Women for a New Era (DAWN)という 3 つの Organizing Partners がファシリテーターとなり、the International Network on Gender and Sustainable Energy (ENERGIA), Global Forest Coalition, and Women's Environment Development Organization (WEDO)を含む中核メンバーにより支援されている。

WMG Key Contacts:

Sascha Gabizon, Women in Europe for a Common Future (WEFC)

sascha.gabizon@wecf.eu

Anita Nayar, Development Alternatives with Women in A New Era (DAWN)

a.u.nayar@gmail.com

Sheila Oparachoa, ENERGIA – the International Network on Gender and Sustainable Energy

s.oparaocha@etcnl.nl

Eleanor Blomstrom, Women's Environment and Development Organization (WEDO)

eleanor@wedo.org